

多動・他害の原因と対応

2024.11.15

発達を見守る会

発達クリニックCan 遠藤尚宏

今日のポイント

- ・多動はその子の特徴と、その時の状況が重要
- ・多動は年齢とともによくなる

- ・他害はその子の言語レベル、コミュニケーション能力に加えて、その子自身が誰かに暴力を経験・目撃していないか（モデルの存在）の確認が重要
- ・他害はきっかけ、本人の行動、結果にわけて振り返り、対応を組み立てる

“かなり”多動になる子のタイプ分け

1. 理解力（知能）が低い
2. 動きが多い + 多弁、集中が続かない、時間感覚が弱い
3. まわりが見えていない
4. 気持ちのコントロールが苦手
5. 環境因（生活リズム、養育・保育環境等）

1. 理解力（知能）が低い

- ・子どもは幼ければ幼いほど落ち着きがない
- ・知能と言語レベルは比例しやすいので、知能が低いと口頭指示がわかりづらくなる
- ・実際の年齢よりも発達段階がゆっくりなら、その分、落ち着きがなくなる。特に、集団の中で見た場合は違いがわかりやすい。

0~2歳の発達

- 愛着形成が最も大切
- 言語発達は言語理解で評価
- 「そこにあるから」が重要な行動の理由

3~5歳の発達

- 自己実現の達成
- 自己制御の発達
- 「楽しい」が行動規範
→イヤイヤ期・かんしゃく

発達がゆっくりな子の対応

- ・発達段階を意識した関わり
 - * 3歳までは物事を視覚的に記憶する
- ・年齢相応の経験を提供する
- ・年齢相応の振る舞いを求める
- ・自己肯定感が下がらないようにする

2. 動きが多い

+ 多弁、集中が続かない、時間感覚が弱い

- ・子どもは幼ければ幼いほど落ち着きがない

- ・3歳の時点では、のちのち診断がつかない子でも、多動や破壊的な行動、強いかんしゃくは高率にみられる

注意欠陥多動症 (ADHD)

落ち着きのなさ

衝動性の高さ

不注意

集中力が続かない

上記のため、複数の場面で、生活に支障をきたしている
100人に5~7人もいる

増やしたい
行動

減らしたい
行動

許しがたい
行動

褒める
注目する

何もせず見
守る
(過剰に反
応しない)

制限を設け
る、公正に
・ 非身体的
に、**望まし
い行動を増
やす**＝ほめ
る機会作る

期限つき
因果関係
を明確に

一貫性と継続性が大切

薬が効く（かもしれない）多動

場所や条件によってほとんど違いがない多動

薬が効かない可能性が高い多動

発達段階（知的能力）相応の行動

反応性の多動

感覚欲求を満たすための多動

3. まわりが見えていない

- 動きが多い、というよりも、場に合わない言動をしているタイプ
- 就学前だけでなく、就学後も続きやすい
- 好きなこと、興味のあることには過集中する。それ以外のことには集中が続かない以前に、やる必要性を感じていないように見える
- 悪気がなかったり、なぜ注意されているのかわからっていないかったりする

自閉スペクトラム症 (ASD) の特性

①社会性の問題

(やりとりが苦手)

人との距離感の問題

(察すること・意味づけすることが苦手)

会話・説明が苦手

(要点をまとめる、言葉で考える、相手の立場に立つことの苦手さ)

②想像性の障害 感じ方の偏り

興味・関心の偏り、執着

ネガティブ記憶が強く残る

概念理解の難しさ

感覚過敏 (特に聴覚)

③上記の特性による、日常生活の困難がある

支援の原則は『SPELL』

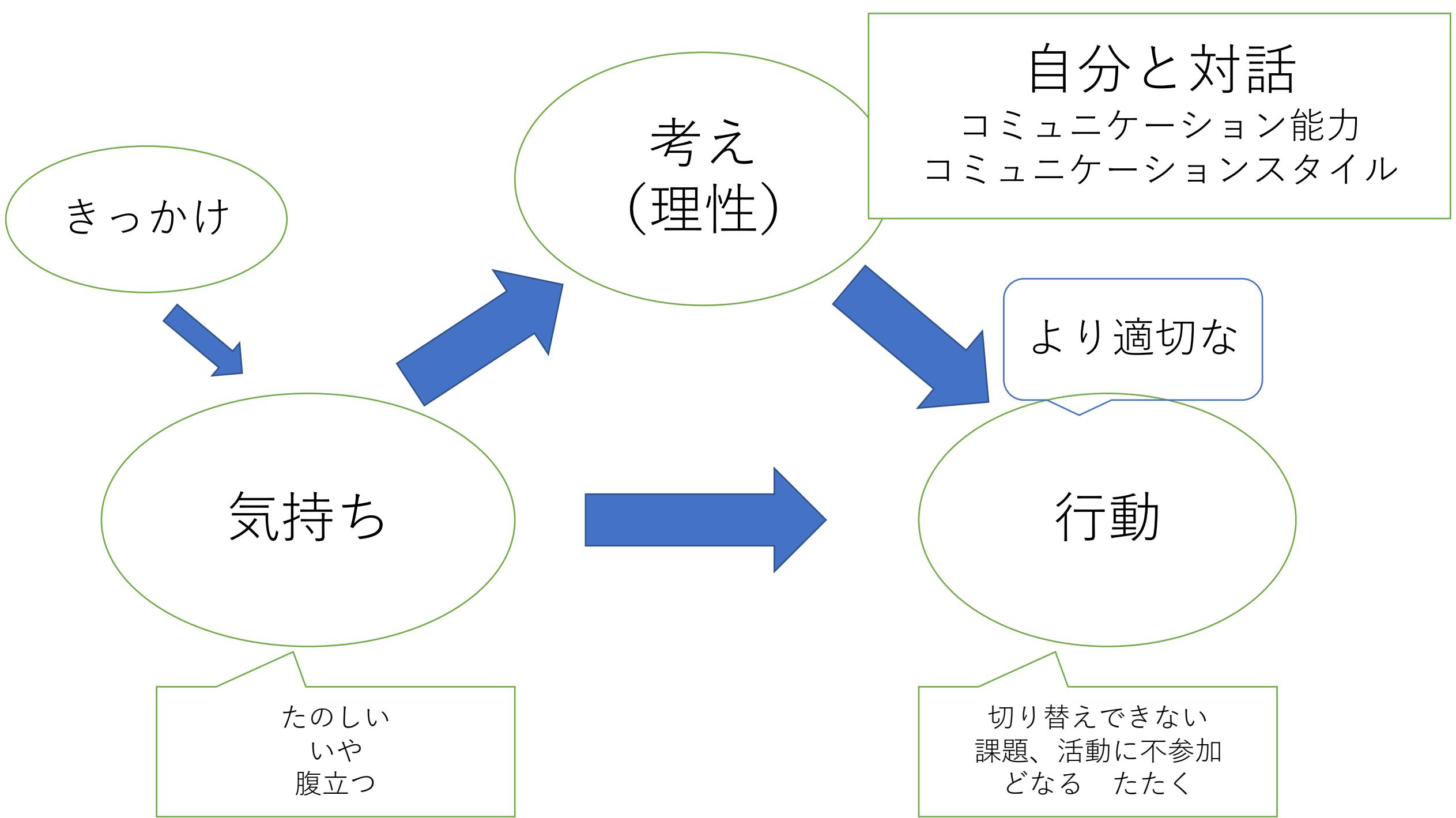
イギリス自閉症協会の基本理念

S	Structure 構造化	何をどうする、終わりの明示など、具体的な見通しを視覚支援でわかりやすく提供する一貫性のある環境
P	Positive 肯定的な関わり	肯定的な表現、肯定的な枠組み(罰を与えるのではなく褒める流れに)、成功体験を積み自尊心向上
E	Empathy 共感	自閉症特性を持つその人が何をどのように体験し、どのような心理状態にあるのか理解しようとする姿勢
L	Low arousal 低興奮・低刺激	興奮やストレスを不用意に招かないようにする環境整備、関わり方の工夫(不快さを低減し安心を増やす)
L	Links 連携	家庭や地域、教育、医療、福祉など、その人や家族を孤立、混乱させないチーム作り

参考：
TEACCH
ABA¹⁴

4. 気持ちのコントロールが苦手

- 一般的にかんしゃくを起こすことが普通である2～4歳の発達段階を過ぎても、かんしゃくのような興奮、攻撃性が続く場合
- 細かく見ると、ネガティブな気持ちを抱えることの苦手さ、心身のストレスへの耐性の低さ、他者の責任を追及する傾向、自分が悪いと思った相手に制裁を加える、などのパターンがある
- 発達特性が関係する場合もあるが、多くは保育・養育スタイルの問題や、よくないモデルの存在がある
=自分がされていること、見てきたことを再現している



感情コントロールの力を育てる関わり方

0. 落ち着くのを待つ
1. 気持ちをきく（代弁する）
2. 気持ちは否定しない
3. 行動は修正する
- 3' 別なとらえ方があると示す

指導する側の注意点

「穏やかに」、「ゆっくり」、「押し付けない（説得しない）」

環境因やストレスはないか？

身体的ストレス

寝不足、疲れ、痛み、熱などの体調不良、虐待

精神的ストレス

不安、きびしいしつけ、虐待、まわりの一貫しない態度

例：運動会・お遊戯会の練習、偏食が多いの子の給食時間

まずは、子どもの置かれている環境や立場について、何か改善できることがないか想像してみましょう。

他害

- 低年齢の場合は、基本的に言葉の代わりに手が出ていることが多いので、言語発達やコミュニケーション能力の成長とともによくなる
→他害が出る時の、子どもの状況認識、その時の気持ち、適切な言動について振り返りをすることで、社会性を伸ばす
- 暴力がコミュニケーションのスタイルやパターンとして根付いていると、子どもへの指導だけでは変わらない
→保護者のしつけ方や園などの保育スタイルの確認

行動の見方

A : 事前

いつ
どこで
誰と
何を
どのように

しないときは？

B : 行動

(他害)

C : 結果

- 本人
- 周囲

行動の見方

A : 事前

自由遊び時間に、
おもちゃのとり
あいになった。

しないときは？

自分が遊び続け
られるとき、も
しくは、相手が
ゆずってくれた
とき

B : 行動

他児にかみつい
た（かみつこう
とした）

C : 結果

- 本人
先生に止められ、
注意された
かんしゃくを起
こした

- 周囲
相手は泣いた
先生は本児を注
意した

保護者への対応

- ・保育者・支援者側が気になっていること、困っていることに対して、**保護者が、**

①気づいているか？

②気づいているなら、困っているか？

を確認する、見極めることが大事

“気になる”を指摘されることに抵抗がある 保護者の気持ち

第3回発達を見守る会“保護者支援”より

- 育て方を否定された。
- 子どものことを「変な子」「おかしな子」という目でみられた。
- 子どもを障がい児にはしたくない。

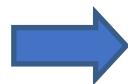
ショック

否認・拒否

発達のアンバランス（凸凹）に対する気づきがないと、
自身を否定されたように感じてしまう

混乱・怒り

（気づいていてもまだ受け入れられないのかもしれない）



厳しく躾ける、思うように育たないことへの失望

日々の関わりでできる保護者支援

第3回発達を見守る会“保護者支援”より

1. 日々の関わりの中で感じたその子の“困り感”を保護者へ伝える。

- 困っているのは（将来、困ることが起きそうなのは）
その子（こども）自身!!

2. 家庭での様子や保護者の困り感を確認。あわせて、家庭でどのような関わりをしているのか教えてもらう。

- 家ではどんな様子なのか。保護者の困り感はない?
園や学校などと家での様子にどの程度の違いがあるのか確認。
- 関わりを一方通行にしない!! “一緒に考えていきましょう”

3. 関わりの中で上手くいった点・上手く対応できなかつた点を保護者と共有する。

- “～ができませんでした”の報告だけでは、保護者の焦りや不安が大きくなる。



- ★ 繰り返すことで、保護者のその子への理解を深めていく。
- ★ 保護者との共通理解を図る。
- ★ 保護者に“ひとりではないよ”的メッセージを伝えていく。

関わりの中では保護者の価値観を否定しない！

ところで・・・

家庭機能の弱さを抱えているケースは、実は、保護者が・・・

- 1. 人に頼る・望むということをしない、うまくできない**
- 2. 報われるまで待てない、ずっと報われた感じがしない**
- 3. 言葉で表現することが苦手**

である場合がある。

上記を配慮して親に関わること、支援者が子どものロールモデルになることが必要になってくる。行政を含めた早期支援が要。